

日本医師連盟委員長

横倉義武

福島県相馬市市長

立谷秀清

# 医療はまちづくり それは、住んでいるまちに 必要なお医者さんがいること。

## 今、私たちが国家戦略特区の医学部新設に反対する理由。



横倉 義武 (よこくら よしたけ) 福岡県福岡市生まれ 外科医  
地域医療の再興を掲げ、かかりつけ医を中心とした医療連携の構築に  
尽力する。

横倉 地域医療における医師の確保は常に私たちが取り組むべき課題です。医師不足問題の高まりを受け、2008年度から2014年度にかけて、大学医学部では合計1444名の入学定員増を進め、2007年度の約1.2倍の9069名となりました。定員増の多くが地域に従事する医師です。これらの医師が今後新たに社会に出ていくことで、状況はかなり改善されていくと見込まれます。

立谷 地域で不足する医師を補うため、医学部の定員増は非常に良いやり方だと思っています。需給を見極めながら医師を必要とする地域で医師を育て、より多くの地元残留者を増やす施策をとる——医学部の定員は医師数の調整弁として優れた役割を果たすと期待しています。

横倉 一方、「医師不足への対応」として、国家戦略特区での医学部新設を求める声が上がってきています。現在、震災復興のために東北で医学部新設を目指した動きが進んでいますが、国家戦略特区の構想はこれとは全く次元の異なる話です。

### 医学部の新設により 新たな医師不足を 招く危険があります。

立谷 2012年に私たち東北市長会が出した医学部新設を求める決議は、復興のシンボルとしての意味を強く持ったものでした。もともと医師不足が深刻だった東北は、震災によりかつてない厳しい状況に置かれました。医師のいないまちに人は住みません。東北が活力を取り戻し、長く安心して暮



らせる地域を目指すため、医学部新設は希望の光になると考えたのです。これは、東日本大震災という極めてまれで不幸な出来事の上に成り立った特殊なケースといえるでしょう。

横倉 国家戦略特区での医学部新設については、私たちは地域医療に与える影響を非常に懸念しています。医学部新設には約300人の医師が教員として必要になります。「医師を増やすため」と言っても、現在地域を支えている多数の医師を現場から引き揚げてくるのでは本末転倒です。そもそも今、医学部をつくっても、入学した学生が第一線で活躍する医師になるまでには約10年以上の歳月がかかります。

立谷 教員確保の方法は、東北での医学部新設においても重要な留意点となっています。東北圏内の医師を教員として迎えないことを、私たちは絶対条件のひとつとしています。

### 国民医療は 経済振興の道具では ありません。

横倉 医学部の新設では、将来の社会の変化に応じた医師養成数の見直しが生じにくいという難点もあります。2060年までに日本の人口は9000万人を割り込むという推計もある中、今後だけの医師を養成していくかは慎重に検討を続けなければなりません。医師の養成には相当な税金が費やされることを考えればなおさらです。

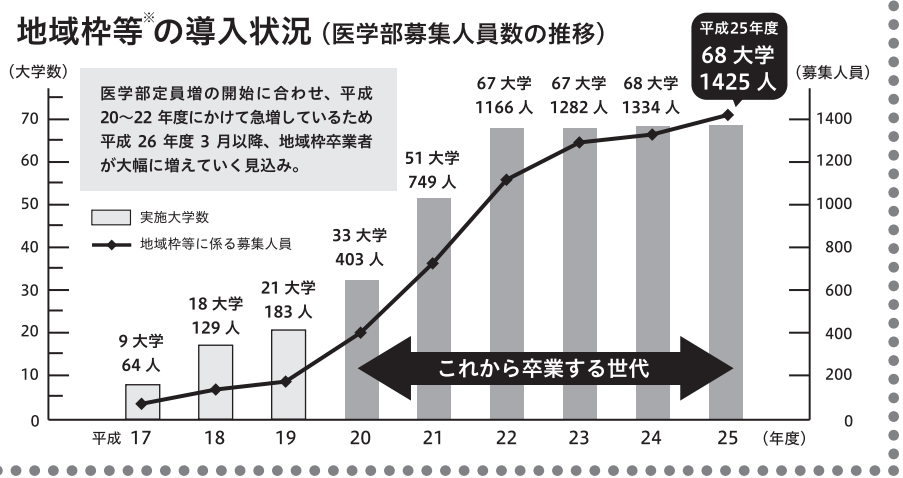
私たちの願いは「必要とする医療が過不足なく受けられる社会づくり」に尽きます。

立谷 国家戦略特区での医学部新設が掲げるのはグローバルな医師養成であり、これは例えば医療ツーリズムの振興などを念頭に置いたものです。経済効果のため医学部を誘致したいという思いは、私も市長として理解できません。しかし、外国人の富裕層に割く医療資源があるなら、国内に多くある医療過疎地への対応が優先されてしかるべきです。特定の地域の経済振興と日本医療の全体のバランスを秤にかけるようなことは適切ではありません。僻地に行くほど医師数が少ない地域格差の問題もそうですが、診療科の偏りが進むのも懸念すべき点で医師不足は結局は「偏在」の問題なのです。

### いま必要なのは 医学部新設ではなく 医師の偏在の解消です。

横倉 その通りです。日本医師会の推計では、2025年には人口1000万人当たりの医師数は3.0人(2010年比約1.4倍)となり、医師数自体の不足には解消のめどがついてきています。あとは、都道府県にある地域医療支援センターの機能を強化するなど、適切な配置で「偏在」をなくすことです。また、人口減と高齢化が加速する中、今後の地域医療には総合的な診療を担う「かかりつけ医」が欠かせず、日本医師会でもその推進に注力しています。

立谷 被災地の市長として痛感することですが、医療は電気や水道と同じように不可欠なライフラインです。人の



※ 地域枠等には、地元出身者のための地域枠に加え、出身地にとらわれず将来地域医療に従事する意志を有する者を対象とした入学枠や入試時に特別枠は指定していないが、地域医療に資する奨学金と連動している枠数を含む。  
<H25.5 文部科学省医学教育課調べ>



立谷 秀清 (たちや ひできよ) 福島県相馬市生まれ 内科医  
2002年相馬市長に就任。東日本大震災の際に市長として復興を指揮し  
そのリーダーシップで注目を集める。